

「2020 治山・林道のつどい」の概要

(治山・森林関連予算の確保に向けた決議採択)

1 開催主旨:

頻発する山地災害や森林・林道被害を受け、地域の社会基盤である森林・山村を守るため、「緑の国土強靱化」のための治山事業及び森林整備事業の推進、林業成長産業化のための路網整備の強力な推進等に向け、林野公共事業予算の拡充を実現するため、関係者一丸となった活動・要請を行う。

2 日 時: 令和2年11月18日(水) 13時30分～

3 場 所: 赤坂インターシティ TheAir

4 出席者: 山口俊一会長はじめ、国会議員 83名 (本人35名代理48名)

5 団 体:

○(主催)治山林道協会会長会議((一社)日本治山治水協会 日本林道協会 都道府県治山林道協会)

○(共催)(一社)全国森林土木建設業協会(以下 全森建)

○(共催)(一社)日本林業土木連合協会(以下 林土連)

○(一社)日本林業協会 ○全国森林組合連合会 ○(一社)日本林業経営者協会

○日本造林協会 ○全国水源林造林協議会連合会 ○全国国有林造林生産業連

絡協議会 ○全国素材生産協同組合連合会 ○各都道府県森林・林業関係者等

※ 各地方組織からWebにより100名近くがご参加

約300名

6 現 場: 岡山県森林協会 山崎親男会長(鏡野町長)

からの声

【全国治山林道協会会長会議代表】

群馬県森林土木建設協会 山藤浩一会長(全森建代表)

(一社)九州林業土木協会 山本求道会長(林土連代表)

7 決 議: 長崎県治山林道協会 古庄剛会長(佐々町長)

8 概 要:

山口俊一会長の挨拶の後、池田農林水産政務官からの激励の言葉。

続いて、日本林道協会創立70周年記念林道功績者(林野庁長官表彰:東京大学名誉教授 酒井秀夫先生他6名、会長表彰10名)を表彰。

さらに、山崎 鏡野町長、山藤 全森建代表、山本 林土連代表から、各地域における激甚な災害への対応や国土強靱化に向けた林野公共事業の必要性を訴える現場からの切実な声と要望があった。

続けて、古庄佐々町長から、全国治山林道協会会長会議としての決議文が読み上げられた後採択され、盛会のうちに終了。

「治山・林道のつどい」の様子/激励の言葉



○山口会長挨拶

➢山でおきた災害は被害が広範にわたる。国土強靱化3か年緊急対策の後もしっかりと国土強靱化に向けた治山・森林対策の予算を確保していかねばならない。



○池田農林水産政務官 激励の言葉

➢国民のいのちと財産を守るため、対策の加速化・深化が必要。そのためには、しっかりと予算を確保すべき。



○現場から駆けつけた関係団体の方々(リモートでも多数参加)



○激励に駆けつけて下さった国会議員の方々

現場の声

◆ 岡山県森林協会 山崎親男会長(鏡野町長)

【全国治山林道協会会長会議代表】



- 地元でも土石流で大きな被害。治山対策で安全・安心が確保された。
- 引き続きの復旧対策をはじめ予防対策を推進するためにも、安定的な予算確保が必要。

◆ 群馬県森林土木建設協会 山藤浩一会長(全森建代表)

- 地域の安全・安心の担い手等となるためには、必要・十分な予算の確保が必要。
- 厳しい施工条件下でも適正な利潤が確保できるような発注等の取組みを要望。



◆ (一社)九州林業土木協会 山本求道会長(林土連代表)



- 地元では「地域の安全・安心を守る」「雇用を支える」等の役割を担っている。
- 安定的・持続的な事業の確保と適正な利潤の確保が必要。
- このためにも継続的な所要の予算の確実な確保を要望。

◆ 長崎県治山林道協会 古庄剛会長(佐々町長)

- 貴重な現場の声を踏まえ、令和3年度当初予算で安定的に措置するとともに、補正予算も含め飛躍的な増加を目指し、決議文を採択する。



決議文

森林整備・治山事業は、かつてより荒廃した森林の再生・保全等に取り組み安全で安心して暮らせる社会を支えています。一方、我が国の国土は地形が急峻かつ地質がぜい弱であることに加え、近年は気候変動の影響に伴う豪雨や地震・火山活動等の自然現象が頻発し、毎年多数の山地災害や林道被害が発生しています。

本年も7月豪雨災害や一連の台風災害等により全国各地で山地災害等が発生し、尊い人命や貴重な財産が失われました。毎年発生する豪雨災害、さらには南海トラフ地震による津波の危険度も高く、大規模災害の発生リスクは依然として高い状態です。雨の降り方や大地震の発生など自然災害は既に今までとは違うステージになっています。

また、新型コロナウイルス感染症の影響は日常生活のみならず経済活動全般に及んでいます。その長期化や拡大によって山村の地域経済も疲弊しています。

このような状況の中で、国民生活や山村地域を脅かす危機的な状況から脱却するには、地域の社会経済基盤である森林をしっかり整備し守っていくことが不可欠です。

このため、山地の復旧対策や流木対策はもとより、事前防災・減災や災害に強い森林づくりによる「緑の国土強靱化」、災害に強い丈夫な林道等の路網の整備を通じた森林整備を強力に推進することなど、林野公共事業予算を大幅に増額するとともに対応した地方債を確保し、これまで以上の治山対策や森林整備対策の推進を強く切望するものであります。

全国治山林道協会会長会議は次の項目について強く要請します。

1. 甚大な災害の発生や新型コロナウイルス感染症を踏まえた緑の国土強靱化への対応

今年度で終了となる「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」後も中長期的視点に立って必要・十分な予算を別枠で確実に確保すること。あわせて、甚大な災害や新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた、補正予算等の緊急の財源措置により、山地災害や林道被害の早期復旧、山村経済を回復させる森林整備・治山対策に必要な措置を講ずること。

2. 治山事業及び林道等森林整備事業予算の拡充

山地災害からの復旧及び防災・減災の実施、並びに路網整備の充実等に向けて、林野公共事業を一層強力に推進するため、令和3年度当初予算において予算の拡充を図ること。

3. 災害に強い林道等の路網整備の強力な推進

林業成長産業化等の実現や災害への対応に向け、木材生産コスト低減に繋がる幹線林道等路網整備や災害時に代替路としても機能する丈夫な林道の整備を令和3年度当初予算において一層強力に推進すること。

4. 森林吸収源対策の着実な推進

森林吸収源対策を着実に実施するため、令和3年度当初予算において森林整備事業をはじめとする森林整備推進のための予算を十分に確保すること。